

F&eIT シリーズ モニタリング&コントロールサーバ SVR-MMF2(FIT)



※ F&eIT は、株式会社コンテックの登録商標です。
製品の価格・仕様・色・デザインは、予告なしに変更することがあります。

特長

■Web モニタリング

Web サーバ(Java アプレット)機能を搭載。離れた場所のパソコンから Web ブラウザで I/O 情報の監視と更新が行えます。監視画面は標準の GUI パーツ(グラフィック、スライダ、ボタンなど)とインポートした画像データを自由にレイアウトすることができます。監視レイアウト、I/O 情報との関連付けなど、すべてのオペレーションが Web ブラウザの操作だけで完了します。

■Web タスクスクリプト

演算、条件分岐、データ出力、E-mail 送信、データロギングなどのアイコンを組み合わせて、実行処理やそのプロセスをフローチャートに書くイメージで設定することができます。すべてのオペレーションは、Web ブラウザの操作だけで完了します。

■豊富なサポートデバイス

- 8 台までのデバイスモジュールをスタックすることができます。
- ネットワーク上の I/O コントローラユニットや I/O アシストサーバユニットとリンクすることができます。
- ネットワーク上やシリアル(RS-232C)接続した PLC とリンクすることができます。

■メッセージ通信機能

- 4 台までのシリアル通信デバイス(COM-2(FIT)GY, COM-1PD(FIT)GY)をスタックすることができます(RS-232C 最大 8 ポート、または RS-422 最大 4 ポート)。
- シリアル通信デバイス(RS-232C/RS-422)やイーサネットデバイス(TCP/UDP)を使って最大 10 のリンクを設定してメッセージ通信を行うことができます。
- Web タスクスクリプトからメッセージの送受信を実現することができます。

■E-mail 送信(ファイル添付可能)

E-mail 送信機能を使って、管理者などにアラーム情報の通知や保存したファイルの送信ができます。

■E-mail 受信

E-mail を受信することで処理タスクの確認およびコントロールができます。

■PPP サーバ・ダイヤルアップ接続

PPP サーバ機能により、外部ホストから電話回線を使ってメンテナンスやデータ転送ができます。また、ダイヤルアップ機能により、本機から電話回線を使ってインターネット接続できます。

本製品は、開発から運用のすべてを Web ブラウザのオペレーションで実現するリモート監視制御用アプライアンスサーバです。各社 PLC や当社 I/O コントローラユニット(CPU-CAXx(FIT)GY*1)などの F&eIT シリーズに対応しており、I/O 情報の Web モニタリングや I/O 情報に基づくアラーム処理、タスク分岐、E-mail 送信、データロギングなどの機能を搭載、遠隔監視システムを低コスト、短時間で構築することができます。

*1 型式内の「x」は、無記名または英数字 1 文字を表し、製品が異なります。以降同様

■SNMP エージェント

SNMP プロトコルを搭載。当社「SNMPc」などのネットワーク管理者ソフトを使って統合管理できます。

■SVR-MMF2(FIT) GY との相違点

SVR-MMF2(FIT)は、Web モニタリングや Web タスクスクリプトでメッセージ通信を行うことができます。

SVR-MMF2(FIT)GY で作成した Web モニタリングや Web タスクスクリプトのバックアップは、SVR-MMF2(FIT)で使用することができます。

	SVR-MMF2(FIT)GY	SVR-MMF2(FIT)	備考
CPU	MachZ(ZF Micro Devices) 120MHz	SH-4 240MHz	
メモリ	64MBytes	64MBytes	
CRT/IF	15 ピン HD-SUB コネクタ	—	
本体シリアルポート	1	—	
USB	2	—	
キーボード/マウス	1	—	
CF(コンパクトフラッシュ)			
サイズ	64MBytes	128MBytes	
収集データ領域	32MBytes	64MBytes	(モニタリング用画像ファイル含む)
スタック可能なシリアルデバイス数	1	4	COM-2(FIT)GY または COM-1PD(FIT)GY をスタックできます
消費電流	5VDC±5% 1.5A	5VDC±5% 0.5A	
外形寸法(mm)	52.4(W)×64.7(D)×94.0(H) 突起部含まず	25.2(W)×64.7(D)×94.0(H) 突起部含まず	
質量	180 g	100 g	

仕様

機能仕様

項目	仕様
搭載 CPU	SH-4 240MHz
メモリ	Flash ROM: 8Mbyte(64Mbit) SDRAM : 64Mbyte(512Mbit)
LAN I/F	Ethernet 100BASE-TX/10BASE-T RJ-45 コネクタ
Controller	National Semiconductor 製 10/100BASE-TX コントローラ DP83815 送信 : 2Kbyte、受信 : 2Kbyte Buffer 内蔵 Full-Duplex 対応
F&EIT I/F	F&EIT シリーズのモジュールを接続
接続デバイス数	最大 8 ユニット *1
モジュール接続方法	本体側面に直接デバイスモジュールを接続 接続機構は本体に標準装備
RTC	リチウム電池バックアップ 電池寿命 : 無通電時 : 10 年以上、通電時 : 約 6 年(25°C) リアルタイムクロックの精度 : 月差 1 分以内
定格入力電圧	5VDC±5%前面装備の 2 ピース電源入力コネクタ(脱着型)より供給 F&EIT シリーズ電源装置の使用を推奨、または市販安定化電源
消費電流	0.5A(Max.) *2 (ただし、デバイスユニットへの供給電流は含まれません)
FG 端子	電源入力コネクタに FG 端子を装備
外形寸法(mm)	25.2(W) × 64.7(D) × 94.0(H) (ただし、突起物は含まれません)
質量	100 g
設置方法	35mmDIN レールにワンタッチ取り付け DIN レール取り付け機構は本体に標準装備

*1 各ユニット最大消費電流の合計は、電源ユニットの定格出力電流を超えないこと。

*2 デバイスモジュールへの電力供給はスタックコネクタより供給する、ただし、スタックコネクタの許容電流値は 3.0A(Max.)です。

設置環境条件

条件項目	条件内容
使用周囲温度	0 - 50°C
使用周囲湿度	10 - 90%RH(ただし、結露しないこと)
浮遊粉塵	特にひどくないこと
腐食性ガス	ないこと
耐ノイズ性	ラインノイズ *3 AC ライン/2kV、信号ライン/1kV (IEC1000-4-4Level 3、EN61000-4-4Level 3) 静電耐圧 接触/4kV (IEC1000-4-2Level 2、EN61000-4-2Level 2) 気中/8kV (IEC1000-4-2Level 3、EN61000-4-2Level 3)
耐振動性	掃引耐久 10・57Hz/片振幅 0.15mm、57・150Hz/2.0G X、Y、Z 方向各 40 分(JIS C0040 準拠、IEC68-2-6 準拠)
耐衝撃性	15G X、Y、Z 方向各 11ms 正弦半波 (JIS C0041 準拠、IEC68-2-27 準拠)
接地	D 種接地(旧第 3 種接地)
規格	VCCI クラス A、FCC クラス A、 CE マーキング (EMC 指令クラス A、RoHS 指令)

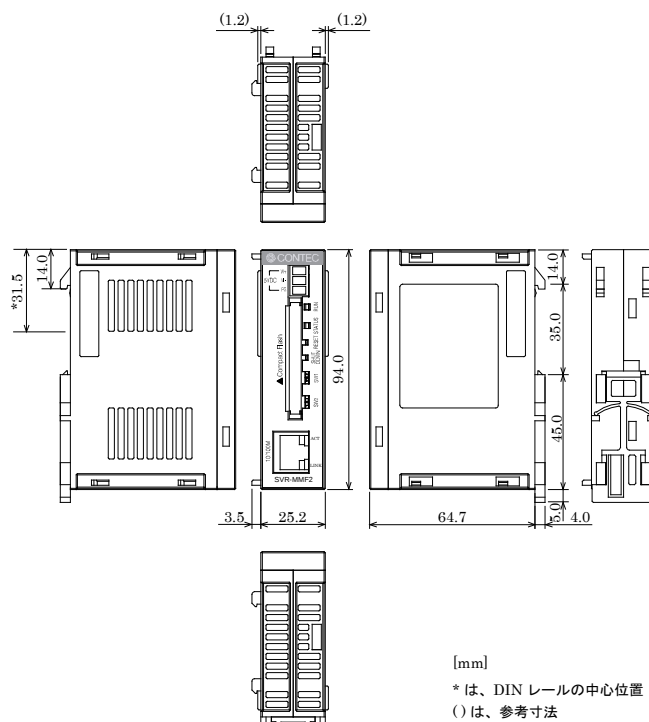
*3 POW-AD22GY 使用時

商品構成

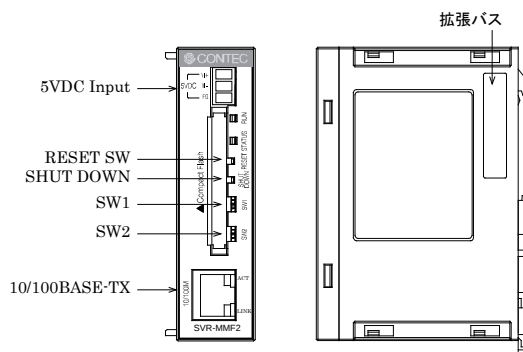
- ☐ ユニット本体[SVR-MMF2(FIT)] ……1
- ☐ ファーストステップガイド…1
- ☐ CD-ROM [F&EIT Series Setup Disk]*1…1
- ☐ マグネット…2
- ☐ 電源入力コネクタ…1
- ☐ フェライトコア…1
- ☐ 登録カード&保証書…1
- ☐ 登録カード返送用封筒…1

*1 CD-ROM には、各種ソフトウェア、解説書、Question 用紙を納めています。

外形寸法



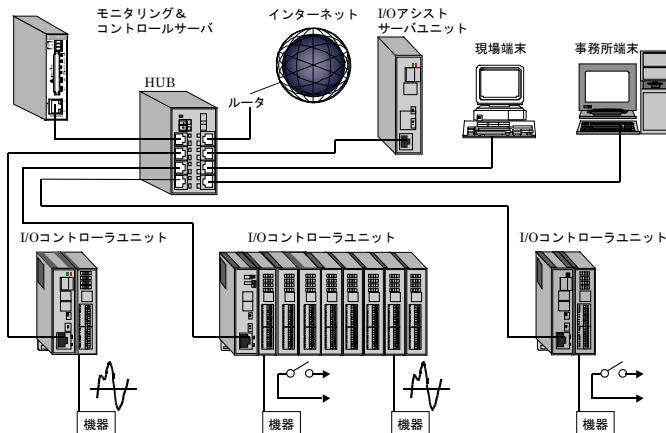
各部の名称



名称	機能
CompactFlash	CompactFlash 挿入コネクタ (TYPE 2 True IDE)
RUN LED	状態表示 LED
STATUS LED	状態表示 LED
RESET	CPU を RESET します(異常発生時のみ使用)
SHUTDOWN	シャットダウンスイッチ
SW1	ユーザースイッチ 1
SW2	ユーザースイッチ 2
10/100BASE-TX	RJ-45 コネクタ
5VDC	電源コネクタ (MC1,5/3-G-3,5 PHOENIX CONTACT)
拡張バス	F&EIT シリーズ接続用コネクタ (0.6mm ピッチ 80 ピン (FX-8C シリーズ HIROSE))

システム構成イメージ

複数の I/O コントローラユニットとモニタリング&コントロールサーバは同一ネットワーク内に設置し、ホストコントローラからモニタリング&コントロールサーバに接続することで配下の I/O コントローラユニットに接続した機器の信号入力、出力ができます。



■ 名称説明

- ・ **モニタリング&コントロールサーバ**: 本製品 SVR-MMF2(FIT)です。本機器に接続したデバイスモジュールからのデータ収集に加え、ネットワーク上の I/O アシストサーバユニット、I/O コントローラユニットからのデータ収集を行います。収集したデータは、モニタリング機能によりグラフィカルに表示することができます。内蔵のプログラミング機能により、上下限值を超えた場合の警報出力や、一定時間間隔での通知等、使用状況に合わせたカスタマイズを簡単に実現することができます。また、収集したデータは内蔵のコンパクトフラッシュカードへの保存や、電子メール、FTP を使用して、ネットワーク上の他のホストへ送信することができます。
- ・ **I/O アシストサーバユニット**: 当社製品 SVR-IOAx(FIT)GY です。機器の Group ID スイッチにて設定した Group ID と同じグループの I/O コントローラユニットからのデータ収集と、I/O コントローラユニットへデータセットを行えるマネジメント機能を持っています。Group ID は 0-7 までの範囲で設定することができます。現場端末・事務所端末から Web のブラウザで接続することにより、I/O コントローラユニットに接続した機器の状態をモニタリングすることができます。
- ・ **I/O コントローラユニット**: 当社製品 CPU-CAx(FIT)GY にデバイスモジュールを組み合わせたものの総称です。機器には、Group ID スイッチと Unit ID スイッチがあり、ネットワーク内で重複しないように設定する必要があります。I/O コントローラユニットは設定された Group ID の I/O アシストサーバユニットへ機器から収集したデータを送信します。Group ID は 0-8 までの範囲で設定できます。Unit ID は 0-7 までの範囲で設定できます。Group ID を 8 に設定すると I/O アシストサーバユニットへデータを送りません。デバイスモジュールには、デジタル入力 8 点出力 8 点のモジュール(DIO-8/8(FIT)GY)、デジタル入力 16 点のモジュール(DI-16(FIT)GY)、デジタル出力 16 点のモジュール(DO-16(FIT)GY)、アナログからデジタルへ変換入力 8 点のモジュール(ADI12-8(FIT)GY)、デジタルからアナログへ変換出力 4 点のモジュール(DAI12-4(FIT)GY)、カウント入力 2 点のモジュール(CNT24-2(FIT)GY)等があります。
- ・ **HUB**: ツイストペアケーブルを使用して LAN を構築する際の集線装置です。F&eIT シリーズでは、DIN レール取り付け機構を持つ 8 ポートのスイッチング HUB ユニットの SH-8008(FIT)GY をご用意しています。

接続方法

◆ コントローラモジュールへの電力供給方法

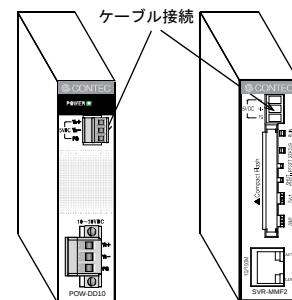
- (1) DC-DC 電源ユニットとコントローラモジュールの接続は、ユニットまたはモジュールフェイスに装備している脱着型コネクタよりケーブル接続します。ケーブル長は、50cm 以下(AWG24 - 16)にしてください(AWG28 の場合、20cm 以下、AWG26 の場合、35cm 以下)。(対応ケーブルは AWG28 - 16)

▼ 注意

デバイスモジュールへの電力はスタックコネクタより供給します。

スタックコネクタからの電源供給は 5.0VDC 3A です。デバイスの消費電流の総和が 3A 以上にならないようにしてください。

SVR-MMF2(FIT)の要求入力電力仕様: 5.0VDC $\pm$ 5%、0.5A(Max.)



(例: POW-DD10)